Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-09-13

第3章 被災資料と歴史資料の保全・活用事業

板垣, 貴志
吉川, 圭太
木村, 修二
村井, 良介
三村, 昌司

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,13(平成26年度事業報告書):36-37

(Issue Date)
2015-03-31

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81009338

た。写真資料については後日福崎町が借用し、10月から2月にかけて、デジタルデータ化作業と目録化作業を行った。また、資料を返却するにあたっては、中性紙封筒への移し替えを行い、資料が長期保存できるようにつとめた。

(2) 三木家資料の整理と研究

大庄屋三木家文書について、山﨑善弘（奈良教育大学）の協力を得て、調査・分析を行った。今年度は、土地の開発にかんする文書と、家の経営に関する文書について、調査・撮影・分析を行った。

(3)『播磨国風土記』の研究

昨年度に引き続き、『播磨国風土記』関連地域の聞き取り調査・フィールドワークを実施した。今年度は、加西と福崎をつなぐ道に着目し、この周辺地域の調査を重点的に行った。調査に際しては学内から坂江渉、古市晃、井上舞が参加したほか、学外から井上勝博（武庫川女子大学）・高橋明裕（立命館大学）の協力を得た。

(4) 古文書講座の開講

昨年度に引き続き、平成27年1月24日・25日に、神崎郡歴史民俗資料館において古文書講座を開講した。講師は木村修二が担当した。今年度は昨年度末に調査した、町内の区有文書をテキストに用いた。本講座は、「古文書講座」と銘打っているが、実施日が2日間しかないため、くずし字を読むというよりは、古文書からどのように地域の歴史がわかるかを解説するような形式をとった。講座は概ね好評であり、次年度以降も継続予定である。

(5) 連続講座

2014年9月13日、毎年福崎町が歴史民俗資料館において実施している連続講座において、連携事業成果還元の一環として、井上舞が「神積寺の縁起と歴史」と題する講演を行った。

(6) その他

(1)～(4)の成果については、福崎町の広報紙『広報ふくさき』上で随時成果報告を行ったほか、歴史民俗資料館平氏絵26年度企画展「ふるさと再発見！～歴史遺産は今昔をつなぐ～」（会期：平成27年3月1日～31日）において、成果を還元した。また、各活動の概要や成果については、『福崎町連携事業平成26年度報告書』に掲載した。

（文責・井上舞）

猪名川町における連携活動

昨年度末（2014年2～3月）に、猪名川町中央公民館において全4回開催の古文書講座が開催され、講師に木村が招かれたことが機縁となり、今年度は月1回の歴史講座として古文書講座が開催されることになった（毎月第3土曜、4月・8月は休会）。テキストは専ら猪名川町域の古文書を使用するため、同館の協力を得て、町内各地の文書の調査・撮影作業も、講座当日の午後を利用して併せて実施してきた。本講座は、次年度も継続予定である。

（文責・木村修二）

― 第3章 ―
被災資料と歴史資料の保全・活用事業

歴史資料ネットワークへの協力・支援

(1) 災害対応関連

今年度は、10月13日に台風19号が通過した洲本市付近で、被害が出たとの報道があり、翌日淡路市教育委員会に問い合わせた。指定文化財には被害はなかったが、市内の川が増水し、その地域を中心に床上・床下被害が200軒程度あったため、同月21日に巡見調査をした。その結果、家屋の被害も軽微であり歴史資料の被害はないと判断した。

今後とも、生活復興と密接な関連をもつ資料保全の意義についての提起などを史料ネットとも協力しながらおこなっていきたい。

（文責・板垣貴志）

(2) 全国史料ネット研究交流集会

歴史資料ネットワークと独立行政法人国立文化

財機構とが主催した「全国史料ネット研究交流集会」（2015年2月14-15日、於神戸国際会館・野村證券神戸支店アネックスホール）に人文学研究科地域連携センターが共催した。奥村弘が「史料ネットの20年と地域歴史文化」と題して講演したほか、各地資料ネット16団体が報告をし、「『地域歴史遺産』の保全・継承に向けての神戸宣言」が採択された。2日間で延べ250名が参加した。

（文責・吉川圭太）

(3) 神戸市兵庫区平野地区における活動

本年度も「奥平野古文書勉強会」毎月1回（第2日曜）開催され（8月と12月は休会）、すべての例会で木村がチューターを行った。

（文責・木村修二）

新出の九鬼家文書の調査と公開

2013年6月、神戸市在住の市民の方から、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターに、ご自宅に所蔵されていた古文書について、大学で研究・教育に活用してほしいということで、寄託のお申し出をいただいた。

この古文書は、織田信長黒印状、豊臣秀吉朱印状、豊臣秀次朱印状、徳川家康書状写などで、地域連携センターで、それらについて調査をおこなった結果、原文書については、印章や文書の様式などに問題はなく、いずれも真正なものと判断したが、さらに大阪城天守閣や、京都大学名誉教授の藤井譲治氏にもご覧いただき、真正なものであることをご確認いただいた。

こうした調査を受けて、2014年12月8日に記者発表をおこない、また地域連携センター年報『LINK』6号（2014年12月刊行）に史料紹介を掲載して、史料を公開した。（文責・村井良介）

石川準吉関係資料の調査

石川準吉関係資料は、戦前企画院調査官などをつとめ、戦後は官僚であると同時に生野鉱山史研究など歴史研究にも取り組んだ石川準吉氏の資料群である。2010年3月に準吉氏の御子息通敬氏のご協力を得て調査を開始し、2013年度までに整理と目録作成、全点表紙撮影を終え、2014年度から内容の撮影に入っている。本年度は、三村昌司（東京未来大学）の統括のもとアルバイト３名を雇用し、石川準吉関係文書内の国家総動員法関係史料を中心に撮影を行った。作業は、資料群が保管されている民間の倉庫において行われた。日時は2015年1月22日、25日、29日、2月12日、19日、26日、3月5日、12日、16日、19日、23日、26日、30日の13回であった。（文責・三村昌司）

― 第4章 ―
阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会

阪神・淡路大震災発生から20年を迎える本年度は、いくつかの団体に協力して次のような震災資料関係の報告や意見交換会等を行なった。

①10月26日

長岡市立中央図書館講堂で開催されたシンポジウム「災害と復興をかたりつぐ」（リレー講演会「災害史に学ぶ」第12回）に、佐々木和子が講師として参加した。

②11月28日

東日本大震災の震災資料関係機関の視察及び意見交換として、奥村弘・佐々木和子・吉川圭太・水本有香が、岩沼市史編纂室及び岩沼市役所を訪問し、岩沼市内における震災資料の収集・保存について意見交換した。また、宮城県図書館を訪問し、宮城県内で進められている東日本大震災資料の収集事業などについて意見交換を行なった。

③12月24日～2015年1月29日

附属図書館の資料展「つたえる・つながる～阪神・淡路大震災20年」の第2期（12月24日～2015年1月29日、於社会科学系図書館）の併設展示として、学生によるパネル展「記憶から歴史へ―阪